

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日 時 令和5年2月4日（土） 午後2時15分～午後3時30分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 24人
 渡辺健対協会長、孝田委員長
 芦田・岡田・岡野・陶山・瀬川・谷口・中根・永原・前田（和）・前田（直）・
 松田・満田・三好・山下・萬井・山根各委員
 県健康政策課がん・生活習慣病対策室：上田課長補佐、岡係長、坂本保健師
 健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、廣瀬主事

【概要】

- ・ 令和3年度肝炎ウイルス検査は、19市町村で実施し、対象者数205,176人のうち、受診者数は4,454人、受検率は2.2%で、前年度と比べ0.1ポイント増加した。
- ・ 精検受診者は39人であり、精検受診率は45.3%で、前年度に比べ22.3ポイント減であった。精検の結果、肝臓がんは発見されなかった。
- ・ 精検受診率の地区別では、東部64.7%、中部40.9%、西部40.4%であった。東部は約10ポイント減、中部及び西部の精検受診率が昨年度に比べ約20ポイントも減少であった。
- ・ 肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対しての定期検査結果は、B型肝炎ウイルス陽性者の定期検査受診者は892名、C型肝炎ウイルス陽性者の定期検査受診者は323名であった。
- ・ 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について、肝炎ウイルス検査による発見がんはなく、定期検査による発見がんまたはがん疑いは、B型肝炎ウ

イルス陽性者から肝臓がんが8名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが6名である。

- ・ 鳥取県肝臓がん検診精密検査登録医療機関登録基準の受講点数の対象となる講習会等について協議を行った結果を受けて、対象となる講習会等を追加し、令和4年4月1日から適用する。
- ・ 令和4年度肝炎・肝がん関連事業の概要について、令和5年度の新規事業としては、疾病構造調査研究事業で行っている「健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げについて」の研究における、FIB-4インデックスの高リスク（2.67以上）者に対して定期検査費用の助成（年2回分）を行う予定にしている。
- ・ NBNC作業部会で、2021年度日野郡・西伯郡特定健康診査・後期高齢者健診での試験的検討の結果、特定健診受診者2,152人のうち、生活習慣病受診勧奨者312人であり、このうちFIB-4測定同意者114人であった。FIB-4測定同意者114人のうち、高リスク群は16人（14.0%）であり、これは生活習慣

病受診勧奨者の5.1%を占めた。2022年中間報告での高リスク群は14.8%であった。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、少しずつ落ち着きつつある。しかし亡くなられる方は第7波の3倍以上多く、高齢のリスクのある方への感染対策等は、今後の地域医療の重要な課題と思っている。

本日は、昨年度の振り返りや経過等の報告等があり、来年度に向けて緻密な対策となるよう様々な意見をいただければと思う。限られた時間ではあるが忌憚のない意見をよろしくお願いします。

〈孝田委員長〉

本日は久々に参集しての会議となり、これまでより様々な意見が出しやすくなるのではないかとと思っている。そのため活発な議論をお願いしたい。

報告事項

1. 令和3年度事業実績、令和4年度実績見込及び令和5年度事業実施計画：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

（1）令和3年度肝炎ウイルス検査の結果について

令和3年度は19市町村で実施し、対象者数

205,176人（令和2年度205,096人）のうち、受診者数は4,454人、受検率は2.2%で、前年度と比べ0.1ポイント増加した。

検査の結果、HBs抗原陽性者は75人で陽性率1.7%（前年度1.4%）、HCV抗体陽性者は12人で陽性率0.3%（前年度0.3%）であった。

精検受診者は39人であり、精検受診率は45.3%で、前年度に比べ22.3ポイント減であった。精検の結果、肝臓がんは発見されなかった。

精検受診率の地区別では、東部64.7%、中部40.9%、西部40.4%であった。東部は約10ポイント減、中部及び西部は昨年度に比べ約20ポイント減少であった。湯梨浜町はHBs抗原陽性者8人であるが、全員精検未受診であった。県健康政策課を通じて、市町村に更なる受診勧奨をお願いしていただきたいという話があった。

（2）肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対しての定期検査結果について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成7年度から実施している、過去に検査で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は全市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果（人・%）			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	2,510	892	138 (14.1)	10 (1.1)	8 (0.9)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	797	323	46 (14.2)	7 (2.2)	6 (1.9)	1 (0.3)

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 令和4年度実施見込み及び令和5年度実施計画について

令和4年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は4,040人、市町村単独事業は1,091人の見込みである。

令和5年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は4,281人、市町村単独事業は1,090人を計画している。

2. 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員長

(1) 令和3年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが4名であった。

(2) 平成7～令和2年度肝臓がん検診発見がん患者、また、平成10～令和2年度定期検査確定がん患者について予後調査を行った。検診発見がん患者の生存率は30%、定期検査発見がん患者の生存率50%である。肝臓がんについては、完治は難しく、予後調査の継続は重要であるため、引き続き行っていく。治療薬の進歩により、予後も随分良くなってきている。平成7年からの検診・定期検査発見がん生存率データを10年程で区切り、生存率を集計して欲しいという意見があった。

3. 精密検査医療機関登録実施要綱の改正について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

令和4年度の夏部会において、鳥取県肝臓がん検診精密検査登録医療機関登録基準の受講点数の対象となる講習会等について協議を行った結果を受けて、12月8日付けで実施要綱の改正を行い、関係機関へ周知した。なお、令和4年4月1日から適用する。

○対象となる講習会等として、以下の学会が対象として追加され、点数は2点となった。

- ・日本消化器病学会（総会、大会、支部例会）
- ・日本肝臓学会（総会、大会、支部会）
- ・日本超音波医学会（学術集会、地方会）
- ・日本肝癌研究会
- ・以上の各種学会については、出席したことが証明できる書類等の写しを提出する。

4. その他

(1) 令和4年度肝炎・肝がん関連事業の概要について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

○令和5年度は、令和4年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施する。新規事業としては、疾病構造調査研究事業で行っている「健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げについて」の研究における、FIB-4インデックスが高リスク（2.67以上）者に対して定期検査費用の助成（年2回分）を行う予定にしている。助成方法（クーポン券の発行等）も検討する。

○肝炎医療コーディネーター養成研修会も継続実施する。

(2) 75歳未満がん年齢調整死亡率について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和3年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和3年は68.1（前年68.6）で28位（前年23位）となり、2年連続で、県がん対策推進計画の目標値（令和5年死亡率70.0）を達成した。死亡率は着実に減少しているが、鳥取県は母数となる人口が少なく死亡率の変化が大きくなる傾向があるため、今後も推移を注視している。

女性の死亡率は50.3（前年48.4）で前年の全国ワースト6位から11位となった。

肝臓がんの男女計の死亡率3.7（前年4.5）で、前年の全国39位から25位に改善した。男性の死亡率は6.0（前年8.0）で、前年の全国42位から24位に改善した。女性の死亡率は1.6（前年1.3）で、前年の全国9位から29位に悪化した。

5. 県の来年度当初予算について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

ほぼ例年とおりの予算を計上しているが、安心して暮らせる社会づくり（患者支援）事業の中の、医療用ウィッグ・補正下着等の購入費用の助成が上限2万円から5万円に拡充する。

協議事項

1. NBNC作業部会のご報告：孝田委員長

地域健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げの試みについて、2021年度日野郡・西伯郡特定健康診査・後期高齢者健診での試験的検討の結果、特定健診受診者2,152人のうち、生活習慣病受診勧奨者312人であり、このうちFIB-4測定同意者114人であった。

FIB-4測定同意者114人のうち、高リスク群は16人（14.0%）であり、これは生活習慣病受診勧奨者の5.1%であった。2022年中間報告での高リスク群は14.8%であった。

課題としては、健診受診率が低い（15.9%）、同意率が低い（26.9%）、高齢患者が多い、FIB-4高値が真に高リスクであるかの精査・確定診断が必要、中リスクの患者（特に肝障害のある患者）をどうするか、役場・保健師への負担が大きい、が挙げられた。

その他に飲酒・喫煙の量や頻度に関して、各自自治体の聞き取り方に違いがあるため、統一して欲しいとのことであった。

2. 糖尿病からの非ウイルス性肝臓がん高リスク患者拾い上げ一現況報告一：岡野委員

非B非C型肝炎細胞癌（NBNC HCC）は本邦で増

加傾向でありながら有効な対策は講じられておらず、近年予後の改善が見られていない。そこで、肝臓がん対策専門委員会NBNC作業部会では、NBNC HCCの高リスク患者群と考えられるFIB-4 index 2.67以上の糖尿病患者に対する定期腹部超音波検査によるNBNC HCC早期診断の試みを2022年度より開始した。

対象となったFIB-4 index 2.67以上の糖尿病患者数：25例（男性15例）・18例（男性12例）、平均年齢：77歳・78歳、平均糖尿病罹病期間：10年・9年、平均HbA1c：7.0%・6.7%、平均AST／ALT：29／25IU／L・36／29IU／L、平均血小板数：15.1万／ μ L・14.8万／ μ L、平均FIB-4 index：3.29・3.56、脂肪肝合併：5例（20.0%）・9例（50.0%）、インスリン／経口剤／投薬なし：2例／20例／3例・3例／12例／3例。鳥取県済生会境港総合病院、日野病院いずれの施設からもHCC診断例は今のところない。

本臨床研究の妥当性を検証するには患者数が少なく評価時期も尚早のため、今後さらなる対象患者の集積と長期追跡を続けていく必要がある。

3. 鳥取県肝炎対策推進計画の改定について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

平成30年を始期とする現在の「第2次鳥取県肝炎対策推進計画（期間6年間）」は、令和5年度に計画期間が終了することから、令和4年度から令和5年度にかけて次期計画の内容を検討していく。本会議では、肝炎対策基本方針の改定内容を参考に、現行の「鳥取県肝炎対策推進計画」に追加が必要と考えられる項目が示された。

改定のスケジュールとしては、令和5年の夏部会において改正素案を提示し、その後パブリックコメント等を踏まえ、令和6年3月頃に計画策定される予定となっている。

孝田委員長からは、改正素案は委員会で協議するのであれば、事前に資料を委員に送るようにしていただきたいという要望があった。

4. 第4次鳥取県がん対策推進計画の策定について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

平成30年を始期とする現在の「第3次鳥取県がん対策推進計画（期間6年間）」は、令和5年度に計画期間が終了することから、令和4年度から

令和5年度にかけて次期計画の内容を検討していく。「鳥取県がん対策推進県民会議」を中心として検討を行っていく予定であるが、健対協にも対策の必要な項目や設定すべき個別目標等について、ご意見伺いたいとのことであった。今後、健対協で素案を示す際は、資料を各委員へ送り、事前に見ていただくようにする。

肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和5年2月4日（土）
午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）
鳥取市戎町

出席者 93名（医師：90名、その他：3名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

委員長 孝田雅彦先生の座長により、鳥取市立病院内科診療部主任部長 谷口英明先生による「肝細胞癌—診断と治療の進歩—」の講演があった。

症例検討

鳥取赤十字病院 満田朱理先生の進行により、鳥取県立厚生病院 三好謙一先生、日野病院 河村実穂先生から症例報告をしていただき、検討を行った。